

令和2年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名：宮城県産針葉樹皮のイチゴ養液栽培への利用

事業実施期間：平成30年度～令和2年度

担当課室名：農業振興課（農業・園芸総合研究所）

担当班名：普及支援班（野菜部イチゴチーム）

TEL:022-211-2837(022-383-8135)

e-mail:nosins@pref.miyagi.lg.jp

URL :

1 事業の目的

ヤシガラに代わり針葉樹皮をイチゴ養液栽培用培地として利用する方法を検討し、林業及び木材・木製品製造業から排出される針葉樹皮の農業での利用推進の可能性を検討するもの。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

試験課題名：宮城県針葉樹皮のイチゴ養液栽培への利用

- 1) イチゴ親株用培地としての利用について検討
- 2) イチゴ養液栽培用培地（本ぼ）への利用の検討と既存のヤシガラ培地との比較
- 3) イチゴ養液栽培用培地（本ぼ）利用した場合の経年利用について検討

3 当該年度の実施事業の成果

- 1) イチゴ親株用培地としての利用について検討
 - ・杉皮樹皮発酵パウダー（商品名：イデアルグリーン）は培土と比較して、親株の生育及び発生するランナー数に差はみられなかった。また、親株1株から得られる子苗数は培土よりも多かったため、親株培土の代替資材として利用可能であることが明らかとなった。
- 2) イチゴ養液栽培用培地（本ぼ）への利用の検討と既存のヤシガラ培地との比較
 - ・イチゴの培地は通常継続して利用し、不足分を補充する形で利用される。このため、ヤシガラ培地の不足分にイデアルグリーンを追加した試験を行ったところ、上乘せ及び混ぜ込みのどちらもヤシガラのみとの培地と比較して同等の生育と収量が得られたため、ヤシガラの不足分への補充用培地としての利用が示唆された。
- 3) イチゴ養液栽培用培地（本ぼ）利用した場合の経年利用について検討
 - ・イチゴの培地は通常継続して利用されることから、針葉樹皮を用いた場合も同様に経年利用可能か検討する必要がある。5作目のイデアルグリーンと5作目のヤシガラ培地を比較したところ、生育及び収量は同等からそれ以上となったため、5作利用可能であることが示唆された。

4 今後の展開

・「普及に移す技術」第96号にて本試験成果を普及情報として掲載し、宮城県産針葉樹皮を堆肥化して粉碎した製品はイチゴ養液栽培用培地へ利用可能であることを示す。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

（指標：イチゴ高設栽培用培地入れ替え面積（a））

平成30年度	令和元年度	令和2年度
0	2	2

6 事業費の推移

単位：千円

平成30年度	令和元年度	令和2年度
4,546	4,338	4,536